

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝、ベッドのなかで目をさましたエヌ氏が、枕まくらから頭をあげると、耳についているイヤリング状の小さなスピーカーがささやいた。

〈おはようございます。あなたの睡眠は充分でございます。きょう一日を、元気で過ごし下さい〉

スピーカーが枕のなかの装置からの連絡を受け、睡眠の度合いを知らせてくれるのだ。睡眠不足の時はそれを注意してくれるし、眠りの浅い時には、どんな薬を飲んだらいいか教えてくれる。

① たしかに便利だ。こんなものができるとは、むかしの人は考えもしなかったろう。

エヌ氏は、夫人とともに朝食をとる。食事をしている時、また耳もとでスピーカーがささやく。

〈コーヒーはそれぐらいになさって、もっとミルクをお飲み下さい。チーズももうひと切れ……〉

天井のテレビカメラが食卓の上を見つめており、へりぐあいによって食べた量が計算され、その結果が指示の声となって伝えられるのだ。

エヌ氏はそれに従う。ずっと従っているからこそ、このようにからだの調子がいいのだ。やせすぎることもなく、ふとりすぎもない。つねに栄養のバランスがたまたれ、内臓のぐあいもいい。たしかに便利だ。むかしの人は、考えもしなかったろう。

食事がすむと、エヌ氏は洗面所で歯をみがく。そのあと、小さな装置を五秒ほど口にくわえる。これは口中状態検査器。細菌の有無、虫歯のぐあい、酸性度などを調べてくれるのだ。

〈お口のなかに、異状はございません〉

スピーカーが報告してくれた。

ひげをそり、洗顔したあと、エヌ氏はべつの小さな装置を手にし、自分の頭をなでる。これは毛髪状態検査器で、異状があればすぐに知らせてくれる。頭を洗うべき時を教えてくれるし、適当なヘアトニックの指示(注1)もしてくれる。これによって、毛髪はいつも最良の状態にたもたれているのだ。

エヌ氏はトイレにはいる。ここにも装置があるのだ。排泄物はいせつぶつを分析し、なにかの変化があれば知らせしてくれる。消化のぐあいを調べ、食事の注意をしてくれることもあれば、薬を飲むように告げてくれることもある。病院へ行って、念のために精密検査を受けるようにと指示されることもある。

最初のうちは変な気分だったが、なれた今では、かえって気が休まる思いだ。病気は初期に発見され、手おくれになることもない。異状がないのに、病気かもしれぬと悩むこともない。また、必要もないのに、むやみと薬を飲まないですむ。長生きを与えてくれる装置のなかでも、これは重要なもののひとつだ。

どれもこれも、たしかに便利だ。こんなものができるとは、むかしの人は考えもしなかったろう。

トイレから出ると、電話がかかってきた。

「もしもし……」

おたがいに声をかけあう。電話機に接続したそばの小さな装置は、電話の相手の名前と顔写真とを、スクリーンの上にうつし出している。

その装置は相手がひとこと言えば、その声の特色を分析し、記録ファイルのなかから選び出し、だれからかかってきたのかを示してくれるのだ。はじめて電話する時だけ名前を言えば、二回目からは「もしもし」だけですむ。簡単に正確で、時間の節約になり、声色を使った詐欺さぎにかからなくてもすむ。

話の用件は、旧友からで、会社の仕事で上京するから、夕方にもちよつと会おうとのことだった。

そろそろ出勤の時刻だ。自動ブラシかけ器で服はきれいになっている。ネクタイ選り器がその日の天候、服、気分にあつたのをさし出している。忘れ物検査器が働く。

家を出ようとするエヌ氏に、夫人が言った。

「あなた、領収書保存器が故障しちゃったの、持って行って、会社の途中で修理に出してきてね」

それは領収書（注）をマイクロフィルムにうつしとっておく装置だ。ごく小型であり、分類もしてくれるし、うつりはきわめて精巧だ。このマイクロフィルムは、法廷でも証拠に採用されることになっている。

代金は払った、いや受け取っていない、領収書をなくしてしまった。といったたぐいの争いは、この装置の出現以来、一切なくなつた。たしかに便利だ。むかしの人は、考えもしなかったことだろう。

それを渡しながら、夫人が言いたした。

「それから、きのう修理に出した戸締まり確認装置、午後にはなおっているはずだから、帰りがけにとつてきてね」

外出や就寝前、それを見れば、戸締まりをしたかどうか、一瞬で確かめることができる装置のことだ。締め忘れて泥棒にはいられることもなく、締めてあるのに気になって、ベッドから起きて調べに立つ必要もない。

たしかに便利だ。こんなものができるとは、むかしの人は考えもしなかっただろう。だからこそ、故障したらすぐに修理しておかねばならないのだ。

エヌ氏を送りだしたあと、夫人は万能故障発見器で、家じゅうの装置をくまなく調べる。装置が狂いはじめていると、発見器はベルの音をたて注意してくれるのだ。

そして、修理を要する装置があると、つぎの日の出勤の時、夫人はエヌ氏にたのむのだ。これが日課だった。

エヌ氏は装置をかかえ、出勤の途中、修理デパートに寄って依頼する。どの装置も精巧で複雑で、しろうとが休日を利用してなおす、というわけにはいかないしろものばかりだ。へたにいじったりすると、かえってよくない。どうしても修理は、専門家の手をわずらわさなければならない。

たいていの品は、買ってから三年間は絶対に故障しないとの保証つきだ。事実、その通りでもある。しかし、買ってから五年以上になるものも、たくさんある。それに、あれこれ合計すると、家にある装置は千種以上にもなるのだ。そして、故障していると不便なものばかりだ。

というわけで、一日に一つや二つは、たいてい故障をおこしている。だから毎日、なにかしら持って出て修理に出し、帰りにはなおっているものを受け取り、費用を支払うということになってしまう。

この時だけは、エヌ氏も心のなかで叫ぶ。^②なにが便利だ、こんなことになろうとは、むかしの人は考えもしなかったろう、と。

はしんぐいち
(星新一「装置の時代」による。)

(注1) ヘアトニックⅡ頭髮用の化粧品。

(注2) マイクロフィルムⅡ本や書類、図面などを写して保存しておく小さなフィルム。

— この文章には、エヌ氏のどのような生活が書かれていますか。次の□に当てはまる言葉を本文中から探し、漢字二字で抜き出してください。



に囲まれた生活

二 この文章では、――線部①「たしかに便利だ。こんなものができるとは、むかしの人は考えもしなかったろう。」と同じような表現が繰り返されますが、――線部②では「なにが便利だ、こんなことになるうとは、むかしの人は考えもしなかったろう」になっています。これらの表現の効果を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 現実のことではなく架空の話であることを明確にする。
- 2 これまでに描かれた全ての場面^{すべ}の出来事を正確に思い起こさせる。
- 3 最初に提示された疑問に対する答えを最後に明らかにする。
- 4 ものの見方や考え方が結末で大きく変わることを印象付ける。

三 この文章を読んで、あなたが感じたことや考えたことを、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 本文を引用して書くこと。引用する部分は、かぎかっこ「 」でくくること。
- 条件2 この文章について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。
- 条件3 八十字以上、百字以内で書くこと。

[illegible]